



説教要旨「生け贄の小羊イエス」

ルカによる福音書 22章7～13節

ユダヤ人たちは、出エジプトにおいて奴隷とされていたイスラエルを解放し、導き出された救いの出来事を記念して、一年の初めに過越祭と除酵祭とを守りつつ歩んできました。この二つの祭りはどちらも出エジプトの出来事を記念しており、その救いを与えて下さった主なる神の民としての自覚を深めるために行われます。

イエス様は、ペトロとヨハネを名指しして、その過越の食事の準備をさせます。まず彼らはエルサレム市街に宿屋を借りなくてはなりません。しかし、国中からユダヤ人巡礼者が、エルサレムで過越祭を行おうと集まっていますので（申命記 16 章）、事前の予約なしで過越祭当日の宿屋を確保するのは非常に困難であったことでしょう。もしかしたら、他の弟子が先に行って予約していたのかもしれないとか、この宿屋の主人かその家族が、イエス様の弟子に加わっていたとか、そんな想像もできますが、聖書はそのことに触れていません。ただ一つ、言えるとするれば、準備を任されたペトロとヨハネは、宿を必死に探し回ることなく、宿を見つけられたという事です。イエス様は、この弟子たちが使命を全うできるように下準備をして、弟子たちの働きを支えておられるのです。

そのようにして準備が整えられ、いよいよ過越しの小羊が屠られる時が目前に迫ってきました。ここで屠られようとしている小羊が、イエス・キリストご自身です。自らが屠られようとしている過越の食事の準備を、イエス様はペトロとヨハネに命じて整えさせたのです。この食事を準備したのはペトロとヨハネですが、この過越の食事はイエス様ご自身が弟子たちを招いてあずかせて下さったものです。

神様は、この祭のさなかに、イエス様が十字架につけられて死ぬという救いの出来事を実現しようとしておられます。神はその独り子を、私たちが滅びの定めから救い出すために、私たちの身代わりとなる生け贄の小羊として用意してくださったのです。そしてイエス様はその定めを受け入れつつ、この救いの計画のために、私たちに招いておられるのです。

(2020・10・18 説教者：稲垣真実)